

様式第12号（第7条関係）

2023年4月28日

川西市議会議長 西山 博大 様

会派（呼称）名 日本維新の会 川西市議団

議員名 坂口 美佳

管 外 調 査 報 告 書

このたび管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりお届けいたします。

記

- 1 調査者氏名 田中 麻未、内山 裕介、坂口 美佳
- 2 調査先 加古川市 日岡山グラウンド
- 3 調査期間 2023年4月24日（月）
- 4 調査結果の概要

日岡山公園グラウンドについて

日岡山公園グラウンド

場所：加古川市加古川町大野1754-2

開場時間：9時から21時（利用は2時間単位）

利用料：6,000円/2時間

ナイター照明：1,000円/1時間

附属設備：更衣室 500円/2時間

ゴール 500円/2時間

放送設備 500円/2時間

休場日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）

12月29日から翌年1月3日

予約方法：加古川市スポーツ施設予約システム

（事前に利用者登録必要、利用日の1カ月前から予約可能、電話予約のみ当日予約可能）

最寄り駅：JR日岡駅より徒歩約15分

建築年：平成18年3月

敷地面積：20,000平方メートル

建築面積：90.72平方メートル（更衣室）

グラウンド：ロングパイル人工芝多目的グラウンド

（125m×80m、ナイター設備有り）

ロングパイル人工芝とは、芝が5～7cm程度と長めで、隙間に充填剤が埋め込まれている。持ち運びはできないが、クッション性が高くけがの防止に役立つ。天然芝に限りなく近い見た目と素材。使用前後に芝グラウンドの整備を行わなくてよいので土のグラウンドより時間ぎりぎりまで活動ができる。また白線を引かなくてよい利点がある。

日岡山公園グラウンドは指定管理者制度により、ミスノグループが管理運営を行っている。



①人工芝グラウンド整備に至った経緯について

日岡山公園グラウンドは、多様なスポーツレクリエーション活動の場として利用があり、中でもサッカー競技利用者は人気の高まりにより、青少年の競技者人口を中心に著しく増加していた。しかし、舗装状況が悪く、特に雨後が悪かったため、サッカー競技者のみならず、広くスポーツ愛好者に活動の機会を提供し、また健康づくりに努めるため、平成18年に人工芝塗装による整備を行い、残地を駐車場として整備した。

その後、経年劣化による人工芝の摩擦で人工芝の毛足が短くなることによる充填材（黒ゴムチップ）の露出が著しく、また夏場は高温になるなどの支障が生じた。

市内スポーツ施設の中でも高水準の稼働率を維持している当該グラウンドにおいて利用車が安全かつ快適に利用できるよう、令和元年にスポーツ振興くじによる助成制度を利用し、人工芝全面貼り換え修繕を行った。

②スポーツ振興くじを申請された理由について

市の予算編成方針の中で、投資事業については、国庫補助金等の財源確保に努めることとされており、助成金を受けることで、一般財源を縮小できるため申請をした。

③スポーツ振興くじ申請の手続きの煩雑な負担間（手間）について

助成額と、それに伴う事務の負担感（手間）を比較すると、助成金を受けることに十分な利点があると考えている。必要な手続きには、申請書提出、工事費内訳所・図面提出、実績報告書がある。

はじめはどの区分で申請をすればよいかマニュアルを読み込むのが大変だった、担当者としては国、県へ補助申請をするときと同じような感覚。

④スポーツ振興くじの助成額及び自治体負担額について

助成額は30,000千円、自治体負担額は29,290千円（契約金額は59,290千円）

加古川市は既に人工芝生化されているグラウンドについて、全面貼り換えを行ったため、人工芝生化改設事業の助成区分で助成を受けた。人工芝生化改設事業の助成対象経費限度額は上限40,000千円、助成金限度額は30,000千円（助成割合は3/4）また、人工芝生化新設事業の助成対象限度額は上限60,000千円、助成金額度額は48,000千円（助成割合は4/5）

⑤人工芝グラウンドの維持管理方法について

指定管理者報告の収支決算または収支予算における支出総額（人件費・高熱水費含む）

令和3年度（決算）7,717,709円

令和4年度（決算）8,087,000円



令和5年度（予算）8,087,000円

⑥人工芝グラウンドの維持管理方法について

維持管理は、指定管理者または指定管理者が委託した業者が行っている。

具体的には、営業日の開場前に巡回点検を行い、報告。

人工芝自体はほぼノーメンテナンスでゴミや落ち葉を拾う程度。

季節関係なく使用することができる。

⑦人工芝グラウンド整備前後の利用状況の変化について

平成17年の整備前後の利用状況の変化は、具体的な数字は資料がなく不明。

令和元年の整備前後の利用状況は以下のとおりで、従前から高い利用率稼働率を維持している。

（利用率は利用日数/利用可能日数、稼働率は利用コマ数/利用可能コマ数）

平成30年度：57,587人 利用率97% 稼働率86%

令和元年度：50,712人 利用率98% 稼働率87%

（改修のため11～12月休業）

令和2年度：48,947人 利用率94% 稼働率79%（新型コロナ）

令和3年度：51,785人 利用率96% 稼働率80%

令和4年度：58,988人 利用率96% 稼働率90%（速報値）

現場の感覚的には、整備のタイミングで利用料改定（2,000円/2H→6,000円/2H）を行ったが、利用率、稼働率は下がらず、改定した利用料は適正と判断している。

